

日本画像学会 2009年度事業報告 (2010年度 定時総会 第2号議案)

— 目次 —

- (1) 2009年度年次大会(第103回 研究討論会)「Imaging Conference JAPAN 2009」開催報告
- (2) 第52回定時総会 (2009年6月10日) 開催報告
- (3) 2009年度日本画像学会表彰結果
- (4) Imaging Conference JAPAN 2009 Fall Meeting (第104回 研究討論会) 開催報告
- (5) 2009年度 評議員 開催報告
- (6) 理事会 開催報告
- (7) 2009年度 事務局報告
- (8) 編集委員会活動報告
- (9) 技術委員会活動報告
- (10) コンファレンス委員会活動報告
- (11) 事業委員会活動報告
- (12) 運営委員会活動報告
- (13) 財務委員会活動報告
- (14) 国際交流委員会活動報告
- (15) 広報委員会活動報告
- (16) 選奨委員会活動報告
- (17) 企画委員会活動報告
- (18) 法人化検討委員会活動報告
- (19) 関西支部活動報告
- (20) 技術研究会開催報告
- (21) シンポジウム開催報告
- (22) 技術講習会 開催報告
- (23) 画像4学会合同研究会開催報告

— 下記資料は学会ホームページを参照願います —

- ・2009年度 役員・委員会名簿
- ・Imaging Conference JAPAN 2009 (第103回 研究討論会)プログラム
- ・Imaging Conference JAPAN 2009 Fall Meeting (第104回 研究討論会)プログラム

(1) 2009年度年次大会(第103回研究討論会)「Imaging Conference JAPAN 2009」開催報告

実行委員長 落合行雄(王子製紙) 実行副委員長 時吉智文(王子製紙) 石田勝彦(王子製紙)

2009年6月10日(水)～12日(金)の3日間、日本画像学会(通算103回)Imaging Conference JAPAN 2009を東京都・品川「コクヨホール」で開催した。

イメージングの分野は、電子写真記録、インクジェット記録、サーマル記録などのハードコピー技術に加えて、新たな発展が期待される電子ペーパー/エレクトロニック・イメージングも含むデジタル画像技術や電子デバイス製作技術として注目を集めているデジタルファブリケーション技術へと、その技術領域を発展・拡大している。本学会は、これらの画像を核とした新たな技術、科学の発展・拡大に貢献することを目指して活動している。

今年のICJ2009では、オンディマンド・プリンティングという『高速・高画質・低ランニングコスト』が必要なパブリッシング領域におけるハードと「出力を支える“紙”」をテーマとしたセッション、「コピーの時代」—どこまで本物に迫れるか!!—をテーマに、写真画質に迫る高画質出力技術を、文化財保護に応用したデジタルアーカイブ技術のセッション等で、電子写真、インクジェットなどの紙へのプリント技術の発展を取り上げる一方、ペーパーレス技術の電子ペーパー/エレクトロニック・イメージングを取り上げたセッションの構成とした。また、今後のビジネスへの展開が期待されるデジタルファブリケーション、ディスプレイに関連する有機材料・デバイス、画像感性に関するセッションや、ディスカッションを重視したインタラクティブセッションも取り入れた。

その結果、キーノート講演 3件、ビジネス講演 3件、特別講演 4件、一般研究発表 53件、インタラクティブセッション 10件、技術展示 7社という構成となった。

初日、9:30からの落合行雄実行委員長(王子製紙株 執行役員 研究開発本部長)の挨拶では、紙とプリンターはパートナーであることを強調された。続いて、キーノート講演で、「ハードコピーとデジタル印刷における紙メディアの諸問題」と題して、日本印刷学会の尾鍋史彦会長により、紙メディアの世界の中での地域性やハードを設計する上での考慮点、紙は将来も普遍的なメディアとなりIT時代にも共存し続けることが論じられた。引き続き、富士ゼロックス株 松田司氏より、「電子写真の発展に伴う電子写真用紙技術の変遷」、東京大学 平尾雅彦教授より「紙のリサイクルと環境影響」、王子製紙株 内田洋介氏より「古紙の脱墨技術について」の講演があり、ハードと紙メディアが共存するための今後の取り組みについて紹介され、ハードの技術者には大変参考となった。

午後の日本画像学会2008年度表彰式では、東京工業大学 半那純一教授の学会賞をはじめ、功労賞3件、論文賞2件、研究奨励賞2件、会長特賞1件、名誉会員1件、技術賞2件、日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞1件、日本画像学会コニカミノルタ研究賞1件が授与された。

午後のビジネス講演では、「コピーの時代」—どこまで本物に迫れるか!!—をテーマに、デジタルアーカイブ技術によって複製された多くの文化財を展示しながら、京都文化協会 田辺幸次氏の「綴りTSUZURI 文化財未来継承プロジェクト」、トッパンフォームズ株 大坪尚義氏の「デジタル印刷による絵巻物復刻への挑戦」、エプソン販売株 岩本康平氏の「インクジェットによる美術品の複製時の面質表現について」の講演があり、会場一杯となる盛況で、技術者の方々の関心の高さが伺われた。

並行して10件のノンストッププレゼンテーションを含むインタラクティブセッション展示が行われ、東海大学 井上園美氏らの発表「紙とディスプレイ間の疲労差の要因分析—手持ち効果の評価」がベストポスター賞に選

ばれた。

2日目は、富士ゼロックス㈱の舘野克美氏のオンディマンド・プリンティングを用いたパブリッシングに関するキーノート講演、「高速電子写真・カラー連続紙プリンター技術について」、続いて電子写真（デバイス、材料）、インクジェットといった現行のイメージング技術の根幹を成すセッションと、デジタルファブリケーション、ダイレクトマーキング&新規イメージング、画像基礎&画像感性といった、今後の発展が期待される技術についてのセッションがあり、参加者との間で活発な討議が行なわれた。

3日目は、日立製作所㈱の鈴木 薫氏によるキーノート講演、「電子ペーパー技術応用市場予測」、大阪大学大森裕教授による特別講演「環境にやさしいフレキシブル有機ELディスプレイ」があり、引き続き8件の電子ペーパーに関する発表が行なわれ、情報の表示、コミュニケーションのペーパーレス技術について、活発な論議が行なわれ、今後の進展が予感された。また、画像処理&環境、電子写真（デバイス、シミュレーション）、インクジェットの発表も行なわれた。

今回は世界経済不況、新型インフルエンザの流行と大変厳しい環境下での開催であったが、約400名の多数の参加者の間で、大変活発な討議や情報交換が行われ、盛況な大会となった。特に、イメージング技術を駆使した文化財の複製物を展示したビジネス講演や懇親会では、参加者の方々が展示物を間近で見ることが出来る様にしたことで、活発な議論が行なわれていた。また、製紙会社の特色を出したキーノート講演や特別講演も、ハードの技術者には大変関心のある内容で会場は一杯となっていた。

最後に、今回の開催にあたって、ご協力頂きました会員の皆様には、実行委員会一同 大変感謝致しております。今後も会員の皆様にとって有益な企画を多数設けて、年次大会を益々興味深く、有益な情報交換の場にするよう努力してまいります。 **プログラムは学会ホームページを参照ください。**

(2) 第52回定時総会開催報告 運営委員長 中居仁司(ブラザー工業)

2009年6月10日 Imaging Conference JAPAN 2009(ICJ2009)開催初日にコクヨホール(東京・品川)にて第52回定時総会を開催した。平倉会長の挨拶の後、平倉会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、承認された。

- ・2008年度事業報告、財務報告 ・2009年度事業計画、財務計画 ・新定款案審議
- ・2009年度役員改選報告 ・法人化検討報告

従来の事業/財務の報告に加え、2010年4月1日から一般社団法人(非営利)日本画像学会として法人登記するための定款変更案の説明と審議が行われ大多数の賛成により新定款が承認された。

(3) 2009年度日本画像学会表彰報告 選奨委員長 北村孝司(千葉大学)

日本画像学会は選奨規定に則り、2008年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会 KM 研究奨励賞、日本画像学会 KM 研究賞および名誉会員の選考を行い、2009年6月10日開催の第52回定時総会の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。(敬称略)

<学会賞(第16回)1件>

- ・半那純一(東京工業大学)

<功労賞(第16回)3件>

- ・水口 仁(横浜国立大学)
- ・竹内 学(ユーテック㈱、元茨城大学)
- ・中村俊治(キヤノン化成㈱)

<論文賞(第23回)2件>

- ① 著者：藤本慎也(大日本印刷㈱)、前田博己(大日本印刷㈱)、鶴岡美秋(大日本印刷㈱)、
中山健一(山形大学)、横山正明(大阪大学)

論文名：「縦型有機トランジスタのOn/Off比の改善と周波数特性の検討」

掲載号：日本画像学会誌172号、pp. 9-14

- ② 著者：岡田久雄(三星電子㈱)、竹内学(ユーテック㈱)

論文名：「2成分現像剤の静的帯電理論の再検討」

掲載号：日本画像学会誌173号、pp. 7-16

<研究奨励賞(第16回)2件>

- ①遠藤 寿(千葉大学 現：㈱リコー)「Display Characteristic of Color Electrophoretic Image Display Based on Movement of Particles Using Two Driving Electrodes」Pan-Pacific Imaging Conference '08, pp. 444-446

- ②中川靖子(京セラミタ㈱)「トナー構成材料の三次元分散状態観察」Imaging Conference Japan 2008 Fall, pp. 21-24

<日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞(第4回)1件>

渡邊敏行(東京農工大学)、平田修造(東京農工大学 現：九州大学)

「可逆性感熱材料/セキュリティ技術のための次世代材料の研究」Pan-Pacific Imaging Conference '08,

pp. 398-401

<日本画像学会コミュニノルタ研究賞（第4回） 1件>

遠藤 寿（千葉大学 現：(株)リコー）「Display Characteristic of Color Electrophoretic Image Display Based on Movement of Particles Using Two Driving Electrodes」Pan-Pacific Imaging Conference '08 , pp. 444-446

<会長特賞（第9回） 1件>

板谷正彦（三星電子(株)）

<技術賞（第19回）2件>

① 技術：「自己走査型LEDを用いた1200dpiLEDカラー複合機の開発」

富士ゼロックス株式会社 池田周穂, 寺尾和男, 小野裕士, 楠田幸久, 小野 博

② 技術：「透明トナーによる電子写真画像表現多様化への挑戦 imagePRESS C1+」

キヤノン株式会社 伊藤善邦, 太田光弘, 飯田 育

<名誉会員 1件>

横山正明（大阪大学 教授）

(4) Imaging Conference JAPAN 2009 Fall Meeting (第104回研究討論会) 開催報告 (関西支部)

2009年12月4日(金)、メルパルク京都(京都)にて、Imaging Conference Japan 2009 Fall Meetingを開催した。技術賞受賞記念講演2件、一般口頭発表14件、ポスターセッション23件の発表があり、参加者は115名(対前年比-1名)であった。プログラムは学会ホームページを参照してください。

(5) 2009年度評議員会開催報告 運営委員長 中居仁司(ブラザー工業)

2010年3月10日に東海大学校友会館(東京・霞が関)にて開催し、2009年度事業報告、同財務報告および2010年度事業計画、同財務計画の説明と質疑応答を行った。終了後、特別講演会、懇親会を行った。

- ・特別講演会:テーマ「Augmented Reality・現実の拡張・人間の拡張」
- ・講演者: 暦本 純一様(東京大学大学院 教授)

(6) 理事会開催報告 運営委員長 中居仁司(ブラザー工業)

- ・下記に示す日程で7回理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議をおこなった。

2009年

- 第1回: 4月21日(火) 午後3時~6時 西麻布 霞会館
- 第2回: 6月4日(木) 午後4時~7時 虎ノ門ビジネスセンター
- 第3回: 8月25日(火) 午前10時~12時(終了後、役員研修会) リコー本社
- 第4回: 10月22日(木) 午後4時~7時 虎ノ門ビジネスセンター
- 第5回: 12月8日(火) 午後3時~6時 霞会館

2010年

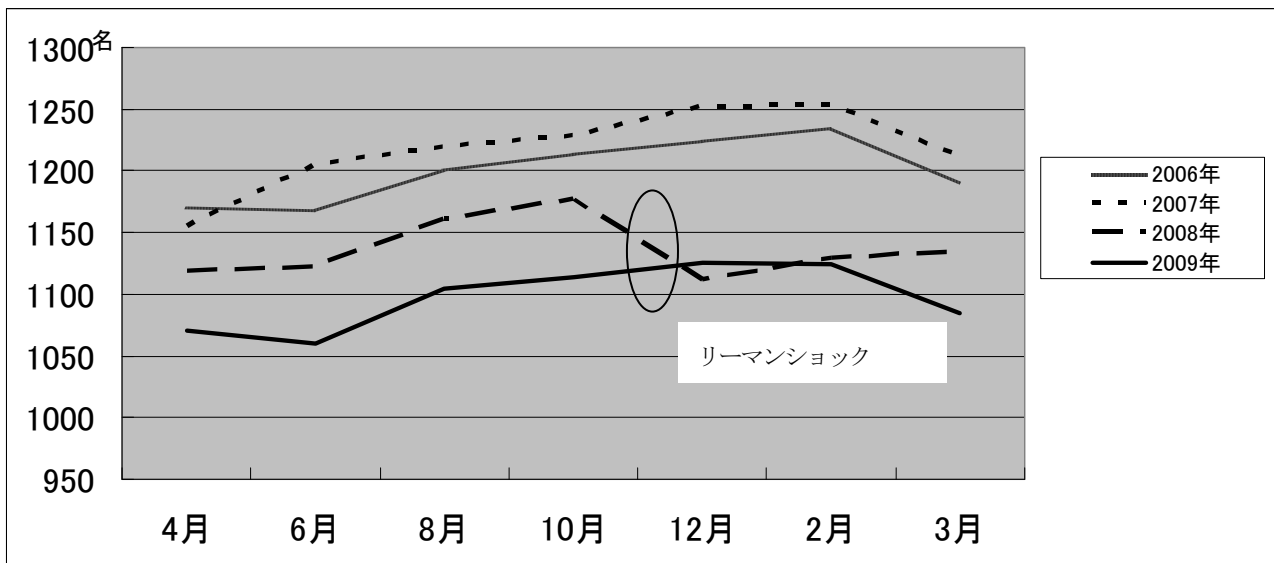
- 第6回: 2月9日(火) 午後3時~6時 虎ノ門ビジネスセンター
- 第7回: 3月10日(水) 午後1時30分~3時 東海大学校友会館

(7) 事務局報告 事務局長 緒方信康

- ・今年度は経済環境が厳しい状況下ではあったが例年とおりの規模で研究討論会、研究会、講習会の各イベントを開催回数13回、開催日数15日で開催した。
- ・法人化に向けて必要な規則を洗い出し必要に応じて委員会に規程や内規の作成を依頼した。又、法人化に伴う事務局業務の見直し及び新経理システムの導入・試験運用を行い4月から運用する。
- ・学会誌の発行部数は会員数の増減に連動して、毎号1700-1600部前後で年6回、編集委員会→印刷会社→発送会社経由で発行されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。
- ・理事会、各種委員会・部会の開催件数は年間80件以上で活発な議論が交わされている。

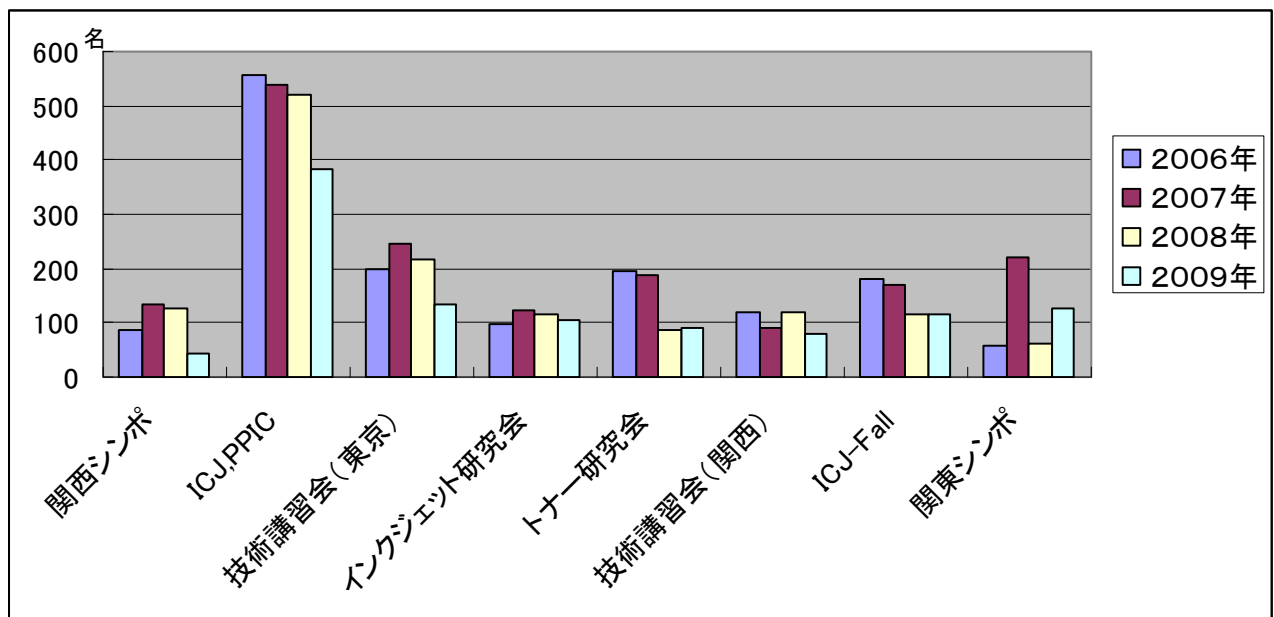
① 年度別個人会員数の推移

- ・2006年度~2009年度までの理事会報告の会員数推移を下記に示す。ピークは2007年2月の1253名で、昨年の10月以降の大幅な落ち込みが未だ回復できていない。



② 学会の主なイベント参加者推移

2006年度～2009年度の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの参加者推移を示す。参加者は2008年10月以降、世界同時不況の影響から前年より2割以上減少している。



(8) 編集委員会活動報告 委員長 竹内達夫(キヤノン)

編集委員会開催6回(内1回は年間編集計画の為、合宿を開催)、フリートーキング” Imaging Today”開催2回、学会誌年6冊定時発行、論文投稿の電子化の本格稼働を10月より開始。編集委員長を北久保茂氏(日本工業大)から竹内達夫(キヤノン)へ交代(10月より)

- 177号 (Vol. 48, No. 1) 2月刊, 81頁, 巻頭言(会長), 一般論文4件, Imaging Today「最近のPODマシンとその技術」, 教育講座「教育講座シリーズIの紹介と今後の予定」, 追悼文, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話
- 178号 (Vol. 48, No. 2) 4月刊, 60頁, 一般論文2件, Imaging Today「画像形成に関わる環境技術」, 教育講座「画像処理技術入門-撮像から出力の最適化に向けて- (I)」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話
- 179号 (Vol. 48, No. 3) 6月刊, 99頁, 一般論文4件, 解説1件, Imaging Today「ペーパーハンドリング(オプション技術及び紙搬送技術)」, 教育講座「画像処理技術入門-撮像から出力の最適化に向けて- (II)」, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話
- 180号 (Vol. 48, No. 4) 8月刊, 140頁, 一般論文3件, Imaging Today「付加価値画像形成技術」, 教育講座「画像処理技術入門-撮像から出力の最適化に向けて- (III)」, 2008年度学会表彰, 日本画像学会第52回定時総会資料, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 日本画像学会50周年記念号編集後記, 画像閑話
- 181号 (Vol. 48, No. 5) 10月刊, 77頁, 一般論文2件, Imaging Today「電子写真定着技術」, 教育講座「画像処理技術入門-撮像から出力の最適化に向けて- (IV)」, 会報, 会告, 電子投稿のお知らせ, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話
- 182号 (Vol. 48, No. 6) 12月刊, 84頁, 一般論文2件, Imaging Today「銀塩写真なんて怖くない?」, 教育講座「画像処理技術入門-撮像から出力の最適化に向けて- (V)」, 委員会活動報告, 会報, 会告, 投稿案内, 日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次, 画像閑話
- 第15回フリートーキング” Imaging Today” 「最近のPODマシンとその技術」, 2009年4月24日(金)開催, 東京工業大学すずかけホール(横浜市), 参加者118名
- 第16回フリートーキング” Imaging Today” 「ペーパーハンドリング(オプション技術及び紙搬送技術)」, 2009年10月23日(金)開催, 東京工業大学すずかけホール(横浜市), 参加者62名

(9) 技術委員会活動報告 委員長 面谷信(東海大学)

1. 技術委員会全体の活動状況

- (1) 2008年度より委員長 面谷信、副委員長 木村正利の体制とし、2009年度も継続。
- (2) 2009年10月5日(木)に第1回主査会議を開催し、役員研修会で提起された技術委員会関連の課題について議論を行った。2009年度は、2010年1月23日(金)(技術委員会総会と同日)に

第2回目の主査会議を開催した。

- (3) 年一度の総会は、学会の経済状態も考慮し経費の面から非開催の可能性についても検討したが、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として意義があるので、今年度を含め今後も開催することとした。2009年度は2009年1月23日（金）に開催した。
- (4) 部会活動についての会員への情報提供を目的とし、学会誌に各部会報告を毎号1部会ずつ掲載し、2年間で全部会の一巡を予定する計画に基づき、画像評価部会、電子写真技術部会、トナー技術部会、画像処理技術部会、インクジェット技術部会までを2009年度中に掲載。
- (5) 各研究会・シンポジウムにおいて、論文形式とスライド形式の予稿が混在している現状にあることに関して、スライド画面ではない講演概要を第1ページ（※）として付加することを、新たに発表者に義務づけることを2008年度に決め、2009年度実施の研究会で実行中。これは将来、研究会予稿の電子化（Web掲載）を行う場合、少なくとも上記第1ページのみはJSTにて掲載を保証されることを狙うものである（この第1ページの掲載により第1ページの付加資料としてスライド画面をも掲載される見込み）。
- (6) 2009年4月～2010年3月にシンポジウム1件（電子写真技術部会担当）、技術研究会4件（共催1件を含む）を開催。

2. 各部会の活動状況

1) 画像評価技術部会（旧第1部会）

- ・ 6回の部会を開催し、長年の課題であったデジタルチャート No.7 の頒布を開始した。
- ・ ICJ '09 にてデジタルチャート No.7 の紹介と頒布促進に努めた。
- ・ 改訂版を頒布するテストチャート No.5: 2008 の解説書の修正作業（チャートの測色、MTF 測定データ、仕様値の見直し）をほぼ終えた。また、課題の研究会開催企画について検討を続けている。

2) 電子写真技術部会（旧第2部会）

- ・ 定例部会、シンポジウム企画会議とともに4回ずつ、八王子において企画合宿・見学・勉強会を開催した。
- ・ 日本画像学会シンポジウム「先進のデジタル印刷ビジネスとプリント技術」（12月、於：発明会館）を企画・開催した。

3) トナー技術部会（旧第3部会）

- ・ 2009年度の活動方針として、標準キャリアの業界標準化の推進（ワールド・ワイドでの頒布）・「外添剤の帯電能評価の標準測定法」の策定・トナー関連技術の深耕につながる技術研究会の企画及び開催を年初に掲げ、以下のような活動状況であった。
- ・ 定例会議を5回、合宿会議、及び研究会を各1回開催。
- ・ 「トナー研究最前線～揺れる市場の中で揺るがないトナーを作る～」をテーマとした研究会を10月に開催した。

4) 画像処理技術部会第（旧第4部会）

- ・ 画像4学会合同研究会「画像再現の将来－忠実を越える本物らしさを目指して－」を開催した。
- ・ 1月の部会活性化の議論から、メンバーの協力を得て部会を4、6月に開催し、11月の画像4学会合同研究会に結びつけることができた。画像4学会合同研究会については、テーマ選定に部会での議論が大きく

貢献し、昨今の経済状況の中ではあったが、有料 47 名を含む 61 名の参加を得ると共に、「視触」表現を用いた美術複製品の展示やリアルな再現を追求した CG, VR を含むプレゼン等が行なわれ有益であった。

5) 画像技術用語部会 (旧第 5 部会)

- ・ 「画像技術用語集 (改訂版) (第 1 版 2 刷) の頒布を進め、またその改訂のための企画会議を開催した。

6) インクジェット技術部会 (旧第 6 部会)

- ・ 定例部会を 5 回開催した。
- ・ 技術研究会、『もっと知りたいインクジェット - インクジェットを支える最新のインク技術-』を開催した。
- ・ 技術研究会企画以外の定例活動を実施できていないが、各社のインクジェットのキーパーソンが集う組織であり、学会内外に有益な活動や、お互いのためになる活動をぜひ実施することをめざし、他部会のように研究機関等訪問を兼ねた合宿や、各社の新製品レビュー会のようなものから実現を検討中。
- ・ 学会誌 184 号(2/10 発行)に技術部会紹介記事を掲載。
- ・ 2010 年度の技術研究会は 10 月 8 日(金)を予定しテーマを 6 月に決定する。

7) 電子ペーパー部会 (旧第 7 部会)

- ・ 2010 年 2 月 26 日、電子ペーパー研究会開催。例年 2 月に実施してきたエレクトログラフイー研究会の開催終結に伴い、学会の研究会等の 11 月前後集中傾向の緩和に貢献するため、例年 11 月に実施してきた電子ペーパー研究会の開催時期を 2 月にずらした。
- ・ 定例部会 (7 回開催)、合宿 (三重大学・武田研究室; ペーパーバッテリー見学) を実施。
- ・ 昨年に続き、部会課題(電子ペーパーの POP 応用)の討議を継続し、2010 年 2 月度の研究会で発表。
- ・ 新企画としての電子ペーパー国際ワークショップを 2010 年 11 月 8-9 日に開催すべく企画検討を進めた。

8) サーマル記録技術部会 (旧第 8 部会)

- ・ 技術委員会総会開催時の他に定例部会を 1 回、ソニー本社にてショールーム見学と合わせて実施 (8 月 26 日) した。
- ・ 部会の課題として、サーマルプリント技術単体では、なかなかトピックスが少なく、話題性のある研究会の開催が難しいが、今回は、サーマルの範疇から多少はみ出して、「プリントと電子ペーパー、ディスプレイなどの比較議論」、「プリントは生き残れるのか・その価値は」、「人はプリントとディスプレイをどう見分けているのか」などを話題とした研究会が成立しないか議論を進めており、2010 年 4 月以降に実施を検討中。

9) イメージング材料部会 (旧第 9 部会)

- ・ 広く画像技術を支えるイメージング材料、将来のイメージング技術につながる新材料ならびにそれらを用いたイメージングデバイス、システムに関する研究開発動向を調査し、技術研究会を通じて会員への還元を行うとともに当学会における材料開発研究の活性化を図ることを部会ミッションとして研究会の開催等をめざしている。
- ・ OPC、特に有機顔料における光電変換が再び有機太陽電池として注目され、CO2 削減を目指して研究が加速され、注目を浴びていることに鑑み、OPC のキャリア生成と関連づけての研究会開催を模索中。

10) シミュレーション技術部会 (旧第 10 部会)

- ・ イメージングプロセスに関わるシミュレーション技術の動向探索と啓蒙活動を通して、シミュレーショ

ン技術の活性化を目指すことを部会ミッションとして活動を進め、部会を4回開催した。

- ・ 2009年夏の第67回技術講習会および2009年秋の第68回技術講習会においてシミュレーション実習を実施した。
- ・ 2010年2月開催を検討したシンポジウムは景気後退と第68回講習会開催準備のため見送りとした。

11) デジタルファブ리케이션部会

- ・ デジタルファブ리케이션に関し日本画像学会における活動を創出し、また新しい技術、実用的な技術を積極的に紹介することでデジタルファブ리케이션のコミュニティを形成し、画像技術の新しい流れを定着させることを部会ミッションとして活動を進め、部会を4回開催した。
- ・ 富山大学の中村研究室の訪問および小講演会を含む部会合宿を下記のように実施した(5月22-23日)。

参加者： 中村真人教授(富山大学)、研究室学生、西田秀行(NEP Tech.)、高田雅之(ブラザー)

部会：小田、鈴木、染谷、照、西、藤井、酒井

内容 中村先生ご講演, DF部会から学生向け講演(酒井), 実験室見学, ディスカッション

講演1	(社)エレクトロニクス実装学会と実装技術の歩み	NEP Tech.	西田秀行
講演2	実装におけるデジタルファブ리케이션	コニカミノルタ IJ	西 眞一
講演3	ナノ粒子の最新技術動向	アルバック	小田正明
講演4	フレキシブルデバイスへの展開	リコー	鈴木 明
講演5	最新インクジェット技術	富士ゼロックス	藤井雅彦

- ・ 2009年度は部会研究会の実施に至らなかったが2010年11月に電子ペーパー部会と合同で電子ペーパー国際シンポジウムを開催すべく企画検討を進めた。

12) 画像感性部会

- ・ 2009年度は部会、研究会の開催に至っていないが、ICJ 2010において「感性と画像」に関する小規模ワークショップを開催すべく企画検討を開始した。

(10) コンファレンス委員会 活動報告 委員長 阿部隆夫(信州大学)

- ・ 2009年6月10日(水)、11日(木)、12日(金)の3日間、コクヨホール(東京都港区港南1-8-35)において、“Imaging Conference JAPAN 2009”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第103回)]を開催した。本会は、王子製紙(株)、三菱製紙(株)、(株)巴川製紙、3社の共同幹事のもとで運営された。実行委員長は落合行雄氏(王子製紙株式会社)、副実行委員長は石田勝彦氏(王子製紙株式会社)ならびに時吉智文氏(王子製紙株式会社)。
- ・ コンファレンス委員会は次の構成で活動した。委員長：阿部隆夫(信州大)、委員：大西 勝(ミマキエンジニアリング)、木村正利(富士ゼロックス)、竹内達夫(キヤノン)、中山喜萬(大阪大)、平倉浩治(リコー)、深瀬康司(信州大学)。
- ・ 2010年6月9日(水)、10日(木)、11日(金)きゅりあん品川区立総合区民会館(東京都品川区東大井5-18-1)で開催予定の“Imaging Conference JAPAN 2010”[日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会(第105回)]の実行委員会が組織され、開催に向けた準備を遂行中である(委員長：コニカミノルタホールディングズ(株)の杉山高司氏、副委員長：コニカミノルタビジネステクノロジー(株)の岡建樹氏およびコニカミノルタテクノロジーセンター(株)の洪博哲氏)。

- ・Conference JAPAN 2011” [日本画像学会年次大会・日本画像学会研究討論会（第 107 回）]の企画・運営についてキヤノン（株）にお願いすることに決定した。

(11) 事業委員会活動報告 委員長 上原康博（富士ゼロックス）

- ・試験標準品頒布：画像評価技術部会開発のテストチャート NO.7 の頒布を 2009 年 4 月 20 日より開始した。
→ http://www.isj-imaging.org/announce/test_chart/list_test_chart.html
- ・トナー技術部会開発による標準キャリア N-02 頒布を 2009 年 4 月より開始した。
尚、標準キャリアについては付属の検定用のトナーだけが欲しいという要望あり。
- ・試験標準品購入の際、学会ホームページからの検索がしづらいとの声があり、学会ホームページのリニューアル時に対応する。
- ・技術講習会： 2009 年 7 月 17 日(木)、18 日(金)の両日、コクヨホール(東京港区)にて第 67 回技術講習会、2009 年 12 月 3 日(木)メルパルク京都にて第 68 回技術講習会（企画運営：関西支部）を開催しました。

[協賛依頼] 2009年

- ・画像電子学会 Advanced Image Seminar 2009 4月16日 三菱電機セミナー室
- ・色材協会関西支部 色材セミナー 5月15日 大阪科学技術センター
- ・日本写真学会 第6回光機能性材料ゼミナー 6月16日 東京工業大学 100年記念館
- ・品質工学会 第17回品質工学研究発表大会 6月29-30日 きゅりあん（品川区立総合区民会館）
- ・色材協会関西支部 色材分散講座 7月7日 大阪科学技術センター
- ・画像電子学会 第10回プロフェッショナル養成セミナー 7月10日 日本印刷会館
- ・日本印刷学会 第3回 夏期セミナー 7月24日 日本印刷会館
- ・色材協会関西支部 第42回塗料講座 8月4-5日 大阪科学技術センター
- ・色材協会 第51回顔料入門講座 9月3-4日、9月10-11日 千葉工業大学 津田沼校舎
- ・電子情報通信学会 第3回イメージメディアクオリティとその応用ワークショップ 9月8-9日 千葉大学
- ・静電気学会 第33回静電気学会全国大会 9月10-11日 東京都市大学 世田谷キャンパス
- ・日本印刷学会 第2回P&I研究会シンポジウム 9月14日 日本印刷会館
- ・画像電子学会 第33回秋期セミナー 9月17-18日 東京農工大学 小金井キャンパス
- ・IS&T NIP25, DF2009 9月20-25日 Louisville, Kentucky, USA
- ・日本印刷学会 2009年秋期セミナー 10月14日 富士フイルム(株)本社
- ・日本印刷学会 第3回P&I研究会シンポジウム 10月23日 日本印刷会館
- ・電子情報通信学会 第2回フレキシブルディスプレイシンポジウム 10月28日 工学院大学
- ・日本印刷学会 オフセット印刷技術研究会 10月28日 日本印刷会館
- ・光学四学会幹事会 カラーフォーラム JAPAN2009 11月3-5日 産総研 臨海副都心センター
- ・色材協会関西支部 色材講演 11月5日 大阪科学技術センター
- ・日本ゴム協会研究部会 第157回ゴム技術シンポジウム 11月6日 東京電業会館
- ・色材協会 第34回顔料物性講座 11月12日 東京塗料会館
- ・日本写真学会 第17回カメラ技術セミナー 11月20日 発明会館ホール

- ・色材協会 第6回色材 IT 講座 11月25日 日本大学駿河台キャンパス
- ・映像情報メディア学会 SID IDW'09 12月9-11日 ワールドコンベンションセンターサミット
- ・高速度イメージングとフォトニクスに関する総合シンポジウム2009 12月10-12日 大阪大学银杏会館
- ・日本液体微粒化学会 第18回微粒化シンポジウム 12月17日 九州大学医学部百年講堂
- ・日本印刷学会 E&S 研究会セミナー 12月17日 日本印刷会館会議室

・2010年

- ・日本印刷学会 第1回オフセット枚葉印刷標準化の基礎技術講座 1月21-22日 日本印刷会館会議室
- ・電子情報通信学会 イメージングメディアの画質評価 1月22日 NHK技研講堂
- ・システム制御情報学会セミナー2009 1月29日 大阪府立大学中乃島サテライト講義室
- ・光学五学会関西支部 第43回光学五学会関西支部連合講演会 1月30日 大阪市立大学文化交流センターホール
- ・日本印刷技術協会 PAGE2010 2月3-5日 サンシャインシティ コンベンションセンターTOKYO
- ・色材協会 第19回顔料分散講座 2月12日 東京塗料会館
- ・高分子学会 2009年度印刷・情報記録・表示研究会講座 2月15日 東京大学弥生講堂
- ・日本写真学会 第5回カラーマネジメントセミナー 2月19日 小森コーポレーションつくばプラント
- ・画像電子学会 第11回プロフェッショナル養成セミナー 2月26日 工学院大学新宿キャンパス
- ・モバイル学会 シンポジウム モバイル'10 3月17-18日 名古屋大学 東山キャンパス

(12) 運営委員会 活動報告 委員長 中居仁司 (ブラザー工業)

- ・学会活動の年間予定の作成、理事会の準備、進行、議事録作成、年次総会、評議員会の準備・実行など、本学会活動の運営全般を推進した。
- ・緒方信康事務局長や事務員金澤能理子らの実務サポート役と連携して学会の実務的な運営を進めた。中島淳三前事務局長には必要に応じて事務局業務の実務サポートをしていただいた。
- ・役員研修会として2009年8月25日(火)、株式会社リコー本社会議室を借用し、全役員にて①会員サービスの向上、②学会長期ビジョンと目指すべき技術方向性、③学会財務の在り方、④国際交流、国際連携について等のテーマにて話し合った。決定したアクション項目として、昨年継続して「ホームページの充実」の他、会員相互の交流促進のための「研究討論会や研究会でのワークショップの開催」や「大学の画像関連研究室の学会誌での紹介」などが挙げられ、夫々、広報委員会、ICJ2010 実行委員会、編集委員会、等で具体策を検討し理事会にて審議中である。結論は随時公開し、実施につなげていく予定である。
- ・会員数の推移、各イベントの参加者等は、(7) 事務局報告の項に記載。

(13) 財務委員会 活動報告 委員長 岡建樹 (コニカミノルタビジネステクノロジーズ)

- ・2008年度収支決算および2009年度予算案の作成を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、総会にて2008年度決算および2009年度予算案の承認を得た。
- ・2009年度予算は、2008年度後半からの経済状況に鑑み、各種イベントへの参加者数を大幅に減少するとして立案した。しかしながら、ICJ や技術講習会の参加者数の減少が予想を超えて大幅であり、09年度の収支実績としては予算に対して約150万円の収支悪化。その結果として、赤字見込み額が約200万円から

350万円に増加。

- ・ 2010年度から法人化することに伴う財務処理上の準備を、会計士やコンサルタントの意見を反映しつつ行った。

(14) 国際交流委員会 活動報告 委員長 半那純一(東工大)

- ・ 米国 画像学会主催、本学会共催の NIP25 : International Conference on Digital Printing Technologies (NIP)、Digital Fabrication (DF) (2009年9月20日～9月24日、Louisville, 米国) の開催に協力した。
- ・ 日韓シンポジウムの終了を受けて、今後の国際協力のあり方について検討を進め、中国を含むアジア地域での交流活動について議論した。

(15) 広報委員会 活動報告 委員長 長山智男(リコー)

- ・ 委員会名称を「会勢拡大委員会」から「広報委員会」へと変更し、学会活動を広く宣伝する事を主目的とし、会員への情報サービス提供の活動を行った。具体的には、日本画像学会のホームページ (URL : <http://www.isj-imaging.org/isj.html>) の管理運営を行った。1997年に開設して以来、420000件を超えるアクセス数となっている (2010年2月現在)。
- ・ 前身委員会「会勢拡大委員会」の「デジタル化WG」としての活動についても本委員会にて引継ぎ、事務局の運営業務のIT化に協力した。

(16) 選奨委員会 活動報告 委員長 北村孝司(千葉大学)

- ・ 選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞、日本画像学会コニカミノルタ研究賞および名誉会員について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。

(17) 企画委員会 活動報告 委員長 酒井真理(セイコーエプソン)

2010年度フロンティアセミナーのテーマ企画を検討したが、テーマの具体性や展開性の点で選定と提案に至らなかった。2010年度に継続し検討を進めることとした。フロンティアセミナー以外の企画として、個人会員を対象としたもの、学生を対象としたものを検討した。2010年度引き続き検討を進め、新しい企画として実施に移すこととした。

(18) 法人化検討委員会 活動報告 委員長 佐藤利文(東京工芸大学)

- ・ 2006年5月に「公益法人制度改革」法案成立に伴い、2007年5月から「法人化検討WG」にて、当学会での法人化による会員サービス向上や法人化によるメリット・デメリット等を検討開始する。
- ・ 2008年3月、「評議員会」にて、当学会の法人化に向けた取組みを検討中である旨を報告する。
- ・ 2008年6月、「総会」にて、当学会の法人化に向けた取組みを検討中である旨を報告する。
- ・ 2008年8月、「法人化検討WG」→「法人化検討委員会」を設置、理事会にて承認され、法人法改正、定款の変更、収支計算書、登記手続き等本格的に法人化に向けた調査・取組みを開始する。
- ・ 2009年3月、「評議員会」にて、当学会の「一般社団法人(非営利)」に登記の提案を行う。

- ・2009年6月、「総会」にて、一般社団法人日本画像学会定款案が承認される。
- ・2010年2月、一般社団法人日本画像学会設立総会を開催する。
- ・2010年4月、一般社団法人日本画像学会登記完了。

(19) 関西支部活動報告 支部長 中山喜萬(大阪大学)

① 関西シンポジウム 2009

2009年5月22日(金)、メルパルク京都において、シンポジウム『イメージングの世界を変えるー革新を起こす材料技術ー』を開催した。6件の講演と、本シンポジウムのタイトルである「イメージングの世界を変えるー革新を起こす材料技術ー」と題するパネルディスカッションを行った。参加者数：42名。

【プログラム】

- ・実行委員長挨拶 浜田 敏正 (シャープ株式会社)
- ・有機電子材料・デバイスの昨日、今日、明日 吉野 勝美 (島根県産業技術センター、大阪大学)
- ・金属ナノ粒子、複合化粒子の開発 畑 克彦 (バンドー化学株式会社)
- ・有機顔料の高機能化 佐藤 隆 (DIC株式会社)
- ・高移動度化をめぐる有機材料設計 半那 純一 (東京工業大学)
- ・バイオナノファイバーで補強した透明・フレキシブル・低熱膨張基材 矢野 浩之 (京都大学)
- ・電子ペーパー「QR-LPD」の実用化とフレキシブル化に向けた開発動向 大野 信吾 (株式会社ブリヂストン)

・パネルディスカッション

「イメージングの世界を変えるー革新を起こす材料技術ー」

パネラー：畑 克彦 (バンドー化学株式会社)

佐藤 隆 (DIC株式会社)

半那 純一 (東京工業大学)

矢野 浩之 (京都大学)

大野 信吾 (株式会社ブリヂストン)

司 会：長山 智男 (株式会社リコー)

- ・日本画像学会 関西支部長挨拶 中山 喜萬(大阪大学)

② 第68回技術講習会

2009年12月3日(木)、メルパルク京都(京都)にて、関西支部企画運営による第68回技術講習会「トナー技術の理解」を開催した。これは、昨年日本画像学会が50周年記念として発刊した『ケミカルトナー』を教科書として、トナー技術部会の著者の方に直接講義を行っていただいた。講演件数は7件で、参加者75名が受講した(対前年度 - 46名)。

【プログラム】

- ・実行委員長挨拶 狩野 篤 (京セラミタ株式会社)
- 1. [第1章] 電子写真システムとトナー特性
[第8章] トナー技術の将来展望

2. [第2章] トナー開発の変遷 多田 達也 (キヤノン株式会社)
3. [第3章] トナーの構成材料 栄田 朗宏 (花王株式会社)
4. [第4章] ケミカルトナー 小口 寿彦 (森村ケミカル株式会社)
5. [第5章] ケミカルトナーの帯電機構 鈴木 千秋 (富士ゼロックス株式会社)
6. [第6章] ケミカルトナーの特性評価 星野 勝義 (千葉大学)
7. [第7章] ケミカルトナーの特徴と適用事例 大田 英樹 (京セラミタ株式会社)
- ・日本画像学会 関西支部長挨拶 沢山 昇 (株式会社リコー)
中山 喜萬 (大阪大学)

③ Imaging Conference JAPAN 2009 Fall Meeting (第104回研究討論会)

2009年12月4日(金)、メルパルク京都(京都)にて、Imaging Conference Japan 2009 Fall Meetingを開催した。技術賞受賞記念講演2件、一般口頭発表14件、ポスターセッション23件の発表があり、参加者は115名(対前年比-1名)であった。プログラムは学会ホームページを参照ください。

(20) 技術研究会 開催報告 技術委員長 面谷信 (東海大学)

① 2009年10月9日(金) 日本化学会 化学会館ホール(東京都千代田区神田駿河台1-5)にてインクジェット技術部会企画の2009年度第1回日本画像学会技術研究会(通算第105回)を開催した。参加者105名。

テーマ 『もっと知りたいインク技術』 ～インクジェットを支える最新のインク技術～

【プログラム】

- 「インクジェットインクの進化, 課題, 今後」 竹本 清彦 (セイコーエプソン株式会社)
- 「インクジェット用有機顔料の現状」 鴛海 功 (DIC株式会社)
- オーサーズインタビュー(1)
- 「インクジェット印刷に関する最新の分析」 日下田 成 (東レリサーチセンター株式会社)
- 「基板上のインク乾燥とドット形成の計測とシミュレーション」 山上 達也 (株式会社コベルコ科研)
- オーサーズインタビュー(2)
- 「カチオンUVインク技術」 朝武 敦 (コニカミノルタI J株式会社)
- 「インクジェットインクの脱墨性」 高橋 広通 (花王株式会社)
- オーサーズインタビュー(3)

② 2009年10月19日(月) 虎の門『発明会館』(東京都港区虎の門2-9-14)にて、トナー技術部会企画で2009年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第106回)を開催した。参加者90名。

テーマ 『トナー研究最前線 ～揺れる市場の中で揺るがないトナーを作る～』

【プログラム】

トナー技術展望

(1) トナーを用いた記録技術 トナーの帯電・特性徹底研究	日本工大	星野坦之
(2) 最新の環境対応型CCA	クラリアント	原田大輔
(3) トナーの帯電理論の再構築	サムスン	岡田久雄
(4) トナー間摩擦帯電と帯電量分布との相関	キヤノン	多田達也
(5) トナー構成材料の非破壊三次元内部分散状態観察	京セラミタ	中川靖子/廣島進
(6) 粉体の表面自由エネルギーと流動性 トナー市場の最新状況	岡山大学	吉田幹生
(7) 世界同時不況に揺れるトナー関連市場の分析	データサプライ	山本幸男

③ 2009年11月16日(火) 日本印刷会館 201-203 会議室(東京都中央区新富1-16-8)にて、画像4学会合同研究会を開催した。画像4学会合同研究会詳細は(23)項に記載。

④ 2010年2月26日(金) 日本化学会館(東京都千代田区神田駿河台1-5)にて、2009年度第3回日本画像学会技術研究会(通算第107回)を開催。参加者119名。

テーマ『電子ペーパー最新動向 ～Eブックからデジタルサイネージまで～』

【プログラム】

開会の挨拶	部会主査(リコー)	堀田 吉彦
「電子ペーパー技術の展望」	大日本印刷	高橋 達見
「台湾PVI社における電子ペーパーの技術概況及び市場展開」	クリスタージュ(PVI代理店)	姓本 憲和
「有機TFEを用いた新規コンテンツビューアーの開発」	大日本印刷	前田 博己
デモ展示	クリスタージュ(PVI代理店), イシダ, ブラザー工業, ブリヂストン	
「電子ペーパーの電子看板応用: デザイン心理学の視点から」	千葉大学	日比野治雄
「電子ペーパー応用-電子指標等」	イシダ	水川 繁光
「交通広告におけるデジタルサイネージの展開事例と課題」	JR 東日本企画	山本 孝
「電子ペーパーの将来像を考える(その3): デジタルサイネージ用途」	技術委員会電子ペーパー部会(日立製作所)	鈴木 薫
閉会の挨拶	技術委員長(東海大学)	面谷 信

(21) シンポジウム 活動報告

2009年11月27日(金) 発明会館(東京都港区虎ノ門2-9-14)にて技術委員会電子写真技術部会(旧第2部会)企画・運営によるシンポジウムを開催した。参加者128名。

テーマ『先進のデジタル印刷ビジネスとプリント技術』

【プログラム】

第1部: 印刷市場から見た製品技術

1. 米国市場にみるデジタル印刷の最先端ビジネス	社団法人 日本印刷技術協会	相馬謙一
--------------------------	---------------	------

2. キヤノン imagePRESS C7000VP による顧客満足度向上への取り組み事例の紹介
シナジーコミュニケーションズ株式会社 鎌田晋一
3. フォトアルバムに求められるプリント技術
錦明印刷株式会社 黒岩信司

第2部：製品技術から見た印刷市場

4. E P & I J デジタル印刷機の可能性
コダック株式会社 内田哲雄
5. クオリティ、スピード、生産性 -Xeikonデジタル印刷機- デジタル印刷機の進化とお客様のビジネスへの影響
パンチグラフィックス株式会社 村松孝義
6. imagePRESS1135シリーズの搭載技術とモノクロPOD市場
キヤノン株式会社 山本武男
7. 品質と生産性を高めたiGen4の新規技術について
富士ゼロックス株式会社 箕田 淳

・関西シンポジウムは（19）関西支部の項に記載。

（22）技術講習会開催報告 事業委員長 上原康博（富士ゼロックス）

① 第67回技術講習会

・2009年7月16日(木)、17日(金)の両日、コクヨホール(東京港区)にて、第67回技術講習会を開催した。今年サブタイトルを「明日につなげる画像技術-基礎と将来動向」とし、これから画像技術に取り組む若手技術者に対する成長機会の提供とベテラン技術者に関しても技術全般を棚卸し整理する有意義な場となることを狙いとして26名の各方面で活躍されている講師の方をお招きして講演を頂いた。1日目に大ホールにて初心者の方を対象とした「入門講習」を設け、これから画像技術に取り組まれる方へ基礎から分かり易く解説することで、大変分かり易く有意義との評価を頂くことができた。また多目的ホールでの画像機器に関連の深い話題を解説する「画像関連技術一般講習」と、セミナールームでは先着15名限定の表計算ソフト(エクセル)を用いた「電子写真シミュレーション実習講習」も合わせて実施した。3会場を使った初日は参加される方の多様な要望に応えることのできる内容となった。

2日目は分野を「電子写真関連講習」と「インクジェット、及び新規技術関連講習」に分け、2つのホールで開催し、より詳細な解説を最新のトピックスを交えながら講義することで詳細な知見の習得と最新技術動向が俯瞰出来るようにプログラムを構成した。

会場内スペースを使った展示会は昨年より1社増えて合計7社(栄和様、山本通産様、ナノシーズ様、フォトロン様、トレックジャパン様、富士フィルム様、マイクロジェット様)のご参加を頂いた。

有料参加者数は133名(会員・維持会員107名、非会員16名、学生10名)となり、世界的不況の影響により過去6年平均204名に対し参加者数は35%減となった。2010年度は経済動向を見ながら参加者数確保の検討が必要である。

・1日目 第1会場(コクヨホール) <<入門講習>>

- | | | |
|-------------------------|-------|-------------|
| 1. インクジェット技術入門 | 藤井 雅彦 | 富士ゼロックス(株) |
| 2. インクジェット液滴の観察、計測、解析入門 | 山口 修一 | (株)マイクロジェット |
| 3. 電子写真プロセス技術入門 | 多田 達也 | キヤノン(株) |
| 4. 電子写真プロセスの可視化計測入門 | 黒須 久雄 | (株)リコー |

5. 画像関連材料の評価技術入門と展示技術の紹介	山崎 弘	コニカミノルタビジネ ステクノロジーズ(株)
	展示会参加各社	
・1日目 第2会場(多目的ホール) <画像関連技術一般講習>		
6. 画像と視覚-形体知覚, 運動知覚, 色覚	吉澤 達也	金沢工業大学
7. デジタルプリンティング市場	三矢 輝章	(株)リコー
8. デジタルファブ리케이션-イメージング技術の製造への応用	酒井 真理	セイコーエプソン(株)
9. 画像処理の基盤技術について	長橋 宏	東京工業大学
10. 画像機器のライフサイクルにおける環境技術開発	大林 陽一郎	(株)リコー
・1日目 第3会場(3Fセミナー室) <<電子写真シミュレーション実演実習>>		
11. イントロダクション	川本 広行	早稲田大学
12. ポアソン方程式、熱伝導方程式の物理的な意味	栗林 夏城	(株)リコー
13. スプレッドシートによるお手軽電界計算(定常問題)	仲野 正雄	キヤノン(株)
14. 有限差分法による定着プロセスの熱伝導計算(非定常問題)	伊藤 朋之	富士ゼロックス(株)
・2日目 第1会場(コクヨホール) <電子写真関連講習>		
15. 電子写真プロセスの画像安定化技術	大木 誠	キヤノン(株)
16. 電子写真現像剤の基礎知識	粕谷 貴重	キヤノン(株)
17. 電子写真感光体の基礎と動向	早田 裕文	コニカミノルタビジネ ステクノロジーズ(株)
18. LED Print Headについて	小野 博	鈴鹿富士ゼロックス(株)
19. 転写プロセス技術の基礎	青木 信次	(株)リコー
20. 電子写真方式における定着技術の動向について	浜田 純一	コニカミノルタビジネ ステクノロジーズ(株)
・2日目 第2会場(多目的ホール) <インクジェット及び新規技術関連講習>		
21. 電子ペーパーの基礎	前田 秀一	王子製紙(株)
22. 昇華転写プリントの最新技術とその魅力	大嶋 克之	大日本印刷(株)
23. 高速度カメラを用いたプリンターの可視化事例	檜垣 尚志	(株)フォトロン
	佐々木 剛史	
24. 走査型白色干渉法による表面性状測定の実例	橋本 剛	テーラーホブソン(株)
25. インクジェットヘッド概論	中島 一浩	キヤノン(株)
26. インクジェットプリンタ用インク技術の現状	林 広子	セイコーエプソン(株)
27. インクジェット記録メディアの基本技術と最近のトピックス	荒井 隆夫	三菱製紙(株)

技術講習会実行委員会 委員長 中里 保史 ((株)リコー)

委員 笠井 利博（東芝テック）、水野 恒雄（水野国際特許商標事務所）、原田 正明（富士ゼロックス）、
萬道 律雄（王子製紙）、半那 純一（東工大）、奥田 幸一（キヤノン）、吉澤 孝一（セイコーエプソン）、
大橋 豊史（三菱化学）、吉田 稔（東芝テック）、笠間 稔（富士ゼロックス）、
山崎 弘（コニカミノルタビジネステクノロジーズ）
事業委員長 上原 康博（富士ゼロックス） 事業委員 小川 格（三菱化学）
電子写真シミュレーション実演講習は、技術委員会旧第10部会との共同開催

② 第68回技術講習会は（19）関西支部の項に記載。

（23）画像4学会合同研究会開催報告

2009年11月16日（月）日本印刷会館（東京都中央区新富1-16-8）にて画像電子学会、(社)日本印刷学会、(社)日本写真学会、日本画像学会の共催で画像4学会合同研究会「画像再現の将来－忠実を越える本物らしさを目指して－」を開催した。参加者有料47名、講師、幹事等を含め61名。

テーマ 「 画像再現の将来－忠実を越える本物らしさを目指して－ 」

【プログラム】

1. 視覚と画像

－「見たい物を」、「見たいように」見ている人の眼に迫る画像技術－

富士フィルム(株) 大塚 秀一

2. 美術品等のインクジェットプリント複製時の面質表現について

－「視触」表現の可能性－

セイコーエプソン(株) 岩本 康平 内堀 法孝

3. カメラ内画像処理による写真表現技法の再現技術

－「アートフィルター」について－

オリンパスイメージング(株) 寺田 利之

4. 計測データと分光反射モデルに基づいた物体の3DCG再現

－3次元デジタルアーカイブにおける色再現精度の向上－

長野大学 田中 法博

5. トップアンVRにおける“本物らしさ”の追求

－リアルタイム3DCGによる文化財の表現－

凸版印刷(株) 吉野 弘一